

留学報告書



留学先国	アメリカ
留学先高等教育機関名	フロリダ州立大学・ディズニーワールド提携インターンシップ
留学期間	2018年8月～2019年1月
留学を開始した時の学年	2年生

留学費用（概算）

授業料（プログラム費用）	44万円
保険料	7万円
宿舍費（1か月あたり）	1万円、のちに1万2000円
食費（1か月あたり）	2万円
渡航旅費	29万円

滞在形態関連

1) 種類	寮。
2) 部屋の形態	相部屋。6人、のちに4人。
3) 設備	シャワー、お風呂（浴槽）、トイレ、エアコン、キッチン、ランドリー、インターネット環境、冷蔵庫、テーブル、椅子、ソファ、ベッド、鏡台、キッチン用具、皿など。
4) 住居を探した方法	留学先大学の指定。

現地情報	
1) 大学内の医務室／診療所や付属の病院などで医療サービスを受けることは可能でしたか？	はい。
2) 現地で病院にかかったことはありますか？	いいえ。
3) 保険について、現地の医療保険に加入しましたか？	いいえ。
4) 留学にあたり、必須の予防接種はありましたか？	はい。麻疹。
5) 学内外で問題が発生したときは、誰に相談しましたか？	留学先の友人、日本にいる友人や家族、ホストファミリーやRA(レジデンスアシスタント)。
6) 現地の治安はどうでしたか？また、現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか？また、実際に窃盗等を含む犯罪に巻き込まれた場合、どのように対処しましたか？	治安はとても良かったと思います。危険地域情報の収集については、在マイアミ日本国総領事館からメールでお知らせをいただいていた。警告された地域にはいかないようにしていました。
7) パソコン、携帯電話、インターネット接続について、現地での利用はいかがでしたか？	寮のWi-Fiを利用して、インターネット接続を行っていました。携帯電話については、日本であらかじめSIMカードを購入して、現地でそちらに切り替えました。
8) 現地での資金調達はどのように行いましたか？	生活費の大体は、インターン先から指定されたデビットカードにインターンで稼いだ分を入れていただいたもので補うことができました。デビットカードをいただく前は、明治のクレジットカードでした。
9) 利便性、買い物はどうでしたか？また現地では調達できない日本から持っていくべき物がありますか？	寮から出ているバスで、ウォルマートというスーパーマーケットに行くことができます。食料だけでなく、生活用品も豊富です。インスタントのみそ汁やカレーのルーなども売っています。寮のそばには、ウォルグリーンというお店があり、生活用品や薬を手に入れることができます。ディズニーワールドのエプコットというエリアにある日本のパピリオンでは、米やインスタントのラーメン、日本のお菓子などを調達できます。1ヶ月に1回ほど寮からアジアンマーケットへのバスが出ており、申し込むとさらに日本食を手に入れられます。オプションで日本から何か分けられるものを持って行くと、現地でできた友達に配ることができます。
10) 授業料(またはプログラム費用)は、どのように支払いましたか？	クレジットカード。
11) その他、生活等に関して参考となることがあれば教えてください。	他には特にありません。

渡航について

1) 現地空港から滞在先まで、どのようにして向かいましたか？

留学先大学のピックアップサービス。

2) 到着後にオリエンテーションはありましたか？あった場合、どれくらいの期間行われていましたか？

はい。実際大学に通ったのは6日間ぐらいでしたが、その間何かしらオリエンテーションは行われていました。

学習・研究活動についてのレポート（履修した科目ごとに記入してください）

履修した授業科目名

Intercultural Communication

授業内容や試験、授業を受けた感想について

大学滞在中に受ける授業です。アメリカの文化について学び、大学を離れた後、自分の国の文化と比較しながらテーマに沿ってレポートを書きます。

履修した授業科目名

Intercultural Communication Practicum

授業内容や試験、授業を受けた感想について

ディズニーワールドでのインターンシップを指します。実際に働くことで文化についての多様な考え方を身につけます。世界中のゲストを満足させるディズニーのホスピタリティーについても学びます。

履修した授業科目名

Applied Intercultural Communication

授業内容や試験、授業を受けた感想について

ディズニーで働き始めてから、1 ヶ月に 1 回行われる授業で概要を学んだあと、生活や働く中で感じたことをもとにレポートを提出します。自分の国とアメリカをはじめとする他の国を比較し、時間や人間関係についての考え方の違いを学びます。

履修した授業科目名

Corporate Social Responsibility

授業内容や試験、授業を受けた感想について

ディズニーで働き始めてから、1 ヶ月に 1 回行われる授業で概要を学んだあと、生活や働く中で感じたことをもとにレポートを提出します。オンラインで取得する文献をもとに、アメリカの文化について理解を深めます。

留学体験記

<p>留学しようと思った理由や、この留学先を選んだ理由</p>	<p>日本と他国との関わりや世界の文化に興味があったことと、住み慣れた日本とは異なる環境で生活することにより何事にも動じない強い精神力を手に入れたいという思いがあったことから、留学プログラムが充実した大学を受験していました。明治大学に入学することが決まってから、様々な国から訪れるキャストやゲストと関わることで異文化について考える機会を持つことができること、質の高いエンターテイメント要素を生み出す過程を学ぶことで、将来就職した時に相手を満足させるサービスを考えることに役に立つと思い、このプログラムを選びました。</p>
<p>留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備</p>	<p>まずは TOEFL で指定された点数をとるために、授業で使っていたテキストの問題全てを解き、見直すということを繰り返しました。本格的に始めたのは 1 年の夏休みからでした。TOEFL の 4 項目の中でも特に Speaking が苦手だったため、1 年の 9 月から英会話イーオンに通い始めました。レッスン以外の時間にもネイティブの先生に話しかけて英語で話すことに慣れるよう努めました。また、先輩やイーオンの先生方に質問される内容を予測してもらい、留学の面接練習もさせていただきました。2 次に向けた練習では、ネイティブの先生にアメリカで行われる面接の方法も教えてもらいました。留学が決まってからは、昨年度留学した先輩と連絡を取り、持って行くべきものや仕事の内容について教えていただきました。留学してから、日本の文化について聞かれた時にさほど多くの話題が思いつかないことがあったり、他の国の人ほどアメリカについて詳しくなく話題についていけないことがあったりしたため、日本と留学する国についてもっと勉強するべきだったと思います。</p>
<p>留学中に役立った書籍、ウェブサイト、アプリ等</p>	<p>ウォルトディズニーカンパニーの人材教育や研修の機関であるディズニー・インスティテュート著作の『ディズニーが教えるお客様を感動させる最高の方法』という本は、ゲストの満足度を高めるために世界中のディズニーランドで共有されているサービス方法について学ぶことができ、2 次面接でどんなことを聞かれても良いように対策することに役立ちました。また、過去の明治のディズニープログラムに参加した先輩方の『ディズニーインターンシップの記録』と題されたブログやも大変参考になりました。</p>
<p>大学・学生の雰囲気（職場や同僚の雰囲気）</p>	<p>パフォーマーのコスチュームを管理するコスチューミングという仕事に就いていたため、職場はバックステージでした。ゲストと関わることがなかったため、キャスト同士で喋りながらゆったりと仕事をするような場所でした。同僚は皆優しく、気さくに話をしてくれる人が多かったです。分からないことがあれば気軽に質問し合い、困ったことがあれば自分のことは後に回して真っ先に助けてくれました。年配の同僚は差し入れをしてくれることが多く、私が最後に働く日にパイを焼いてくれた人もいました。</p>
<p>滞在先の雰囲気</p>	<p>ディズニーが管理する寮の一つ、ピスタウェイに住んでいました。周りには薬や生活用品がそろっているウォルグリーンというお店、ファストフード店やレストランがあり、とても助かりました。最初は 6 人部屋で全員が明治だったため、1 ヶ月ほど経った頃に 4 人部屋に移り、最終的には明治 2 人とブラジル人 1 人と住んで</p>

	<p>いました。仕事の時間帯やオフの日が異なっていたためにあまり話せなかったのが残念でした。しかし、Facebook などを利用しながら生活用品で足りないものを話し合ったり、ゴミ出しの表を活用しながら誰かに頼りきりにならないようにしたり工夫をしながら、お互いが気持ち良く過ごすことができるような環境づくりに協力し合えるルームメイトたちでした。</p>
<p>留学先における交友関係</p>	<p>職場が常にキャスト同士で話をしながら働ける場所だったため色々な人と親しくさせていただきましたが、その中でも特に2人仲良くさせてもらった人たちがいます。一人は同じ時期に参加した韓国からのインターンシップ生で、仕事と同じ日は一緒にランチをとったり、休みの日にはディズニーやユニバーサルスタジオに遊びに行ったりしました。その度にお互いのことについてたくさん話し、今回の留学での一番の親友と言っても良い友人です。もう一人はパートタイムで働いているアメリカ人の学生で、もともと日本に興味を持っていてくれて、彼女の方から私に話しかけてくれました。ちょうどジブリの映画が公開されていた時期だったため、一緒に観に行きました。お互いの国の文化や言葉を教え合い、良い文化交流となりました。その他にも Facebook で繋がっている仲間はたくさんおり、中には私の帰国と同時期に日本に来て東京ディズニーランドで働いているパフォーマーもあり、今度会いに行こうと思っています。</p>
<p>留学中に困ったこと、つらかったこと、大変だったこと</p>	<p>英語での会話が思うようにスムーズにいかないことが一番大変でした。話すことは知っている言葉をかき集めればある程度できることだとは思いますが、相手の言っていることが聞き取れなければ何と答えたら良いのか分からないのです。話すスピードが圧倒的に速く、会話についていけず一人黙っていることもありました。また、仕事に慣れてきた頃、スピードを求められるパレードのパフォーマーの着付けを手伝うことになった時には周りのコスチューミングのキャストが全員アメリカ人ですます話についていけなくなり、仕事に行きたくないと思うようになったこともありました。</p>
<p>留学先における学習、課題や試験</p>	<p>ディズニーで働くようになってから、2週間に1回ぐらいの頻度でフロリダ州立大学にレポートを提出していました。後半になるにつれてだんだん指定される文字数が増えてきて、どのように内容を広げて書けば良いか考えることが大変になってきました。自分の国とアメリカの文化の違いについて考える課題が多く、普段の生活や勤務の中で気づいたことがあれば毎日書いていた日記に記しておくようにしました。そうした気づきを大切にしているうちに異文化について考える機会も増え、考察がさらに深まりました。</p>
<p>大学外の活動（課外活動や自由時間など）</p>	<p>仕事がオフの日には、スーパーに買い物に行くこともありましたが、基本的にはディズニーに遊びに行っていました。明治の友達と行くこともありましたが、どちらかというと職場で知り合った友達と遊びに行くことが多かったように思います。予定が合わないこともあったため、大抵は一人で遊び歩いていました。誰かと行くときにはアトラクションに乗ることが多く、一人の時はショーや映画を観に行きました。ユニバーサルスタジオにも行きました。</p>

留学を志す人へメッセージやアドバイス

留学するまで海外に行ったことがなかった私にとって、日本を出ること自体が怖くて、ましてや働いていけるのかと不安でいっぱいでした。文化の違いに戸惑い、英語を聞き取るのも精一杯だったのは確かです。それでもその違いを受け入れ、恐れずに話すうちにいつの間にかたくさんのかげがえのない友達ができていました。私が留学で手に入れたのは「度胸」です。自分から挨拶をすること、自分から話題を振ること、自分から遊びに誘うこと、どれも思った以上に勇気が必要でした。仕事だけでなく、会話でもたくさん失敗しました。しかし「失敗は成功のもと」と言う通り、いつかは慣れて上手くいくようになります。勇気を出した分、恥をかいた分、成長し、交友関係も広がります。これから留学する皆さんが何倍も強くなって帰って来ることを願っています。自分らしさを忘れずに、そして何より楽しんで来てください。

